発掘ニュース

第 36 号
平成 5 年 2 月 15 日
発行 財団法人 いわき市教育文化事業団
TEL 0246（29）0391

平成４年度根岸遺跡範囲確認調査

――古代磐城郡衙推定地の調査――

古代磐城郡の政治の中心地である郡衙（郡役所）の位置や範囲を確認するため、いわき市平下大越地区にある根岸遺跡の発掘調査が、平成２年度から５箇年計画で行われています。

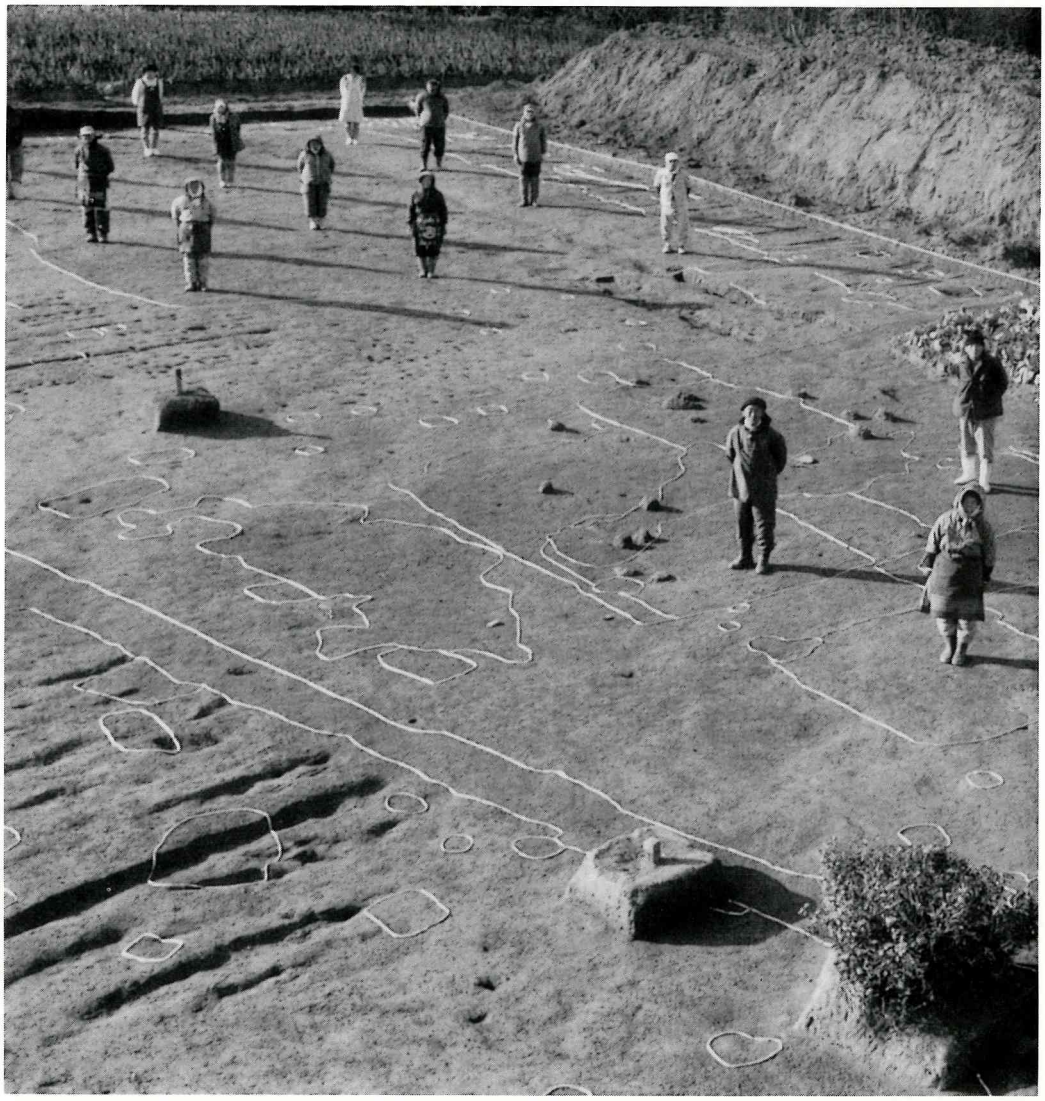
郡衙には、役人が事務をとる郡庁、租税（税は稲で納めた）を収納する正倉と呼ばれる高床式の倉庫群、郡ごとに３～４の館、出張してきた国の役人を接待する宴会の食膳準備や食料の管理をする厨家(くりや)などがあります。

調査によってみつかった礎石を持つ大型の建物跡や掘立柱(ほったてばしら)の建物跡などは、規則性を持って群を構成しており、まさに正倉院と考えられます。

礎石を持つ大型の建物跡（柱と柱の間隔は２．４ｍと大きい）

とじておきましょう

倉庫跡　今年度の調査では、掘り込み地業(ちぎょう)の礎石建物跡や坪地業の礎石建物跡とともに、掘立柱の建物跡も多数発見されました。掘り込み地業や坪地業というのは、建物を建てるための土台の部分の基礎工事の事をいいます。地面を深く掘り凹めた後に、砂や粘性土などを交互に入れて堅く突き固めているため（版築：はんちく）、その断面を見ると黒色と黄色の土の層が縞状に幾重にも重なりあっているのがわかります。建物の範囲全体を版築したのが掘り込み地業で柱の部分だけを版築したのが坪地業です。

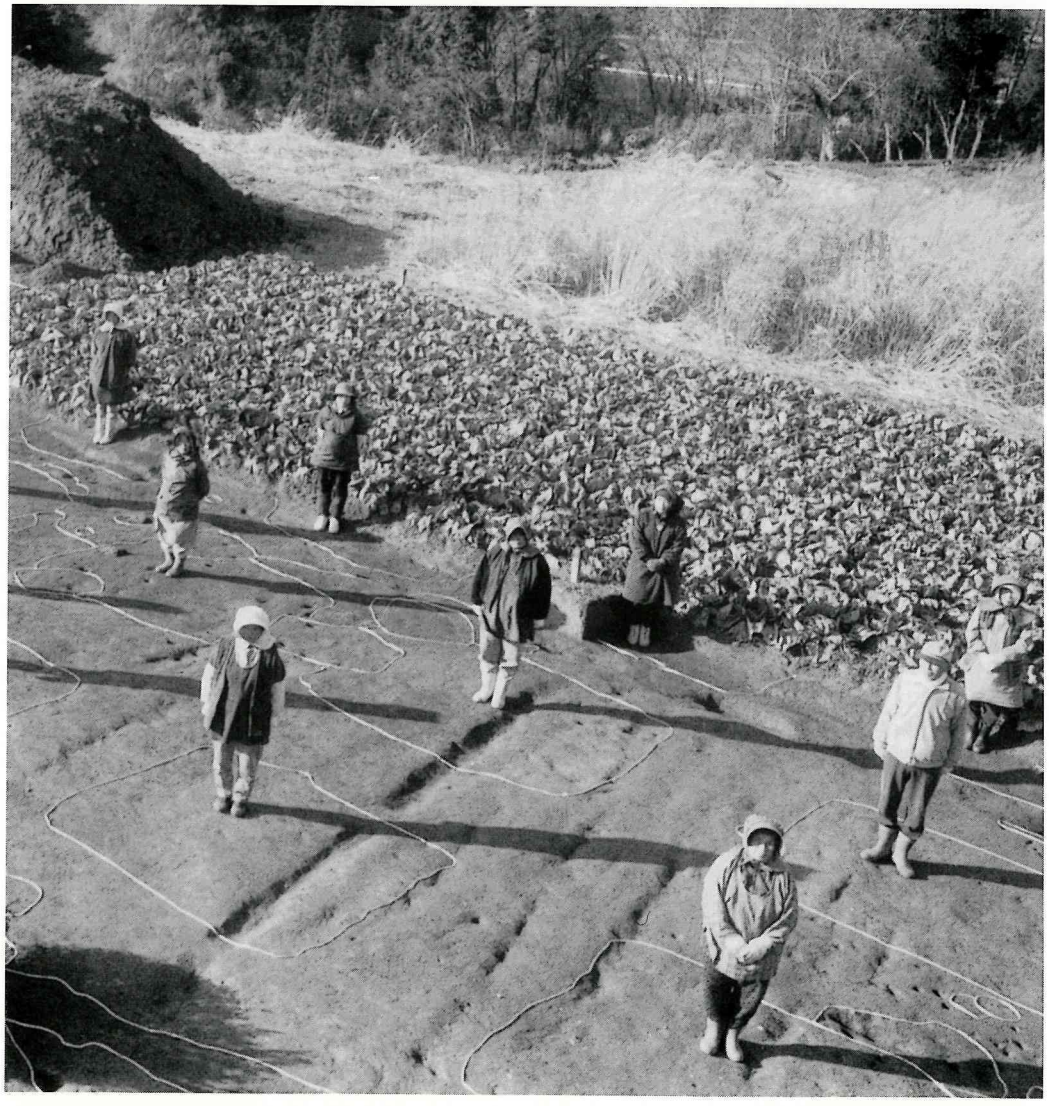


２棟並んで建つ礎石を持つ大型建物跡（向かって左が掘り込み地業跡、向か

この上に大きな土台石（礎石）を据え、柱を支えました。これらの建物の基礎がみつかったところは地表面がだいぶ削られていますが、それでも坪地業の跡では２m近くも地面が掘り込まれていました。

これらの礎石を持つ大型の建物跡は、税として納められた稲束をしまっておく正倉であったと思われます。稲束をしまう正倉や瓦葺きの建物は、建物自体がかなり重くなるため土台の基礎をしっかりつくる必要があったのです。

来年度以降は、郡庁や厨家の位置の確認が目的になります。



って右が坪地業跡）の柱位置に立つ人（建物の広さは４０畳分）

掘立柱の建物跡（南北３間・東西４間、床の大きさ９畳分）

★「根岸遺跡現地説明会」

日　時　・平成５年２月２０日（土）午後１時３０分～３時まで

場　所　・いわき市平下大越字根岸地内

★「古代陸奥国といわきの歴史展」

期　間　・平成５年３月１７日～３月２５日（午前９時より午後６時）

場　所　・いわき市文化センター３階展示場　※入場無料（２１日休館）

とじておきましょう